

2017年1月13日

## 第 681 回 本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長 日覺 昭廣 東レ株式会社 代表取締役社長）では、本日 11 時より第 681 回 本委員会を開催しました。

主要議題およびその概要は以下の通りです。

### 1. エコプロ 2016 への出展報告

第 18 回目となる国内最大規模の環境展「エコプロ 2016～環境とエネルギーの未来展」が昨年 12 月 8 日（木）～10 日（土）の 3 日間、東京ビッグサイトにて約 17 万人の来場者を集め、盛大に開催されました。

- ・化繊協会コーナーでは、「未来を創る化学せんいの先端技術」のテーマで、13 回目となる展示を行った。
- ・環境に役立つ高機能・高性能繊維への関心は一般層・ビジネス層を問わず年々高まっており、より詳しい説明を求める来場者が増えてきていることから、前回も好評だった「教室形式」のブースとして、一日あたり 7 回「化学せんいおもしろ実験教室」を開催。3 日間計 350 名が参加して盛況だった。
- ・この他、化繊協会コーナーでは、クイズラリー（約 1300 名が参加）などのアトラクション、高機能・高性能繊維素材の実験動画（サイエンスシアター）の映写など、今回も多くの方に来場者に PR した。

### 2. 第 11 回アジア化繊産業会議について

第 11 回アジア化繊産業会議が 2017 年 4 月 13 日（木）、14 日（金）の両日、インド・ムンバイで開催されることとなりました。

- ・アジア化繊産業会議は、アジア地域の化繊業界の代表が一同に会して情報交換を行うことにより、相互の認識と理解を深め、信頼関係を築きあげることが目的に、1996 年に第 1 回会議が日本（浦安市）で開催され、今回で 11 回目。
- ・会議には、日本をはじめ中国、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、パキスタン、チャイニーズ・タイペイ（台湾）、タイの 9 カ国・地域（ベトナム等が

オブザーバー参加予定) から、総勢 150~200 名が参加する予定。

- ・日本からは、日覺会長（東レ株式会社 社長）、伊藤副会長（株式会社クラレ 社長）、榎原副会長（東洋紡株式会社 社長）以下約 30 名が参加し、日覺会長より特別テーマ「アジアおよび世界の化繊の中長期需給見通しおよび構造変化」を報告する。会議終了後には各国地域の代表団長による記者会見も予定している。

### 3. 第 30 回複合材料セミナーについて

日本化学繊維協会炭素繊維協会委員会は「第 30 回複合材料セミナー」を以下の通り開催します。今回のテーマは「革新素材で夢を実現、炭素繊維」です。

会員会社による PAN 系およびピッチ系炭素繊維の動向のほか、経産省による情報提供、炭素繊維の主要用途である自動車、航空機、土木・建築分野における最新技術動向、そして革新素材・炭素繊維を商品の姿に変えて社会に提供してきた CFRP メーカーによる講演などを予定しています。

セミナーは事前申込制です。プログラムなど詳細および参加申込は下記 URL をご参照ください。

<http://www.carbonfiber.gr.jp/>

<開催概要>

日時：2017 年 2 月 22 日（水）10：00~16：45（セミナー）

17：00~19：00（懇親会）

会場：コクヨホール（東京/品川駅港南口（東口）徒歩 5 分）

定員：300 名

参加費：一般 20,000 円、官公庁・学校関係者 15,000 円、学生 3,000 円

プレスの皆様を複合材料セミナーへご招待いたします（参加費不要です）。  
当日に直接ご来場ください。

### 4. 2016 年の内外の化学繊維生産動向

2016 年の世界の化学繊維生産動向について、日本化学繊維協会が各国の至近の発表値をもとに推定し、その報告を行いました。概要は以下の通りです。

2016 年の世界の繊維生産は前年比 3%増の 8,906 万トとなりました。化学繊維は 2%増の 6,529 万トと過去最高を記録しました。内訳は合繊（オレフィン繊維を除く）が 2%増の 5,994 万ト、セルロース繊維（アセテート・トウを除く）が 4%

増の 535 万トです。化学繊維の生産は 2009 年以降 8 年連続で拡大しましたが、繊維全体に占めるシェアは、綿が前年比 7%増となったことから前年の 74%から 73%と 1 ポイント減少しました。

2006～2016 年の年平均伸び率で見ると、合繊が 5.6%、セルロース繊維が 7.1%と依然高い伸び率を示しました。

化学繊維の国・地域別生産は、最大の中国が前年比 3%増の 4,570 万トと、生産増は継続したものの、伸び率は鈍化傾向を示しました。世界生産に占める割合は前年比横ばいの 70%です。その他の主要生産国・地域はインド、ASEAN、韓国が 2～5%前後の増加、西欧、米国がほぼ横ばい、台湾、日本が 2～6%減少しました。

主要品種では、ポリエステルが中国の成長率の鈍化によりフィラメント、ステープルともに 2%弱の増加にとどまりました。ナイロンは中国の大幅増が継続したことから 8%増、アクリルステープルは微減（0.7%減）でした。

<本件についての問い合わせ先>

担当：日本化学繊維協会 技術グループ 兼 業務調査グループ 川名（03-3241-2312）

以上